

第104号

平成27年4月8日発行

群馬県山岳連盟

〒371-0005 前橋市堀之下町494-2

女屋 等志方

TEL 027-269-4570

FAX 027-269-4583

編集発行人

群馬県山岳連盟編集委員会 岡安茂能

印刷所 朝日印刷工業(株)

山岳ぐんま



チャレンジキッズプロジェクト2014 春から秋の谷川山系

ジュニア委員会

小泉 俊夫



平成二十五年九月の一ノ倉沢の計画を皮切りに、二十六年度は年間四回の計画を立てた。群馬県山岳連盟でまさか子供たちをハイキングにとはいかない。当然そんなことは思ってもみないことであるが。

場所は何処にするか、それは谷川中心で行こうと決まった。軽いものだと最初は思ったが、具体的な計画を立ててみるとかなり大変なことであった。

例えば昨年の一ノ倉沢では、事前の状況偵察に四回出かけた。大雨などにより前回の偵察時にはなかったはずの流木が沢を跨いでいたり、ジュニアたちを安心して沢登りをさせるには十分な偵察が欠かせない。年間四回の実施ともなれば、各回の状況偵察だけでも相当な日数が必要だ。とても日曜日だけでは足りない。

二十六年度の計画は三月湯檜曾川沿いスノーシュー、六月天神尾根より谷川山頂、八月一ノ倉沢（一ノ沢出合まで）、九月マチガ沢大滝（大滝ロッククライミング）二十七年三月スノーシューとした。

準備段取りを含め特に夏場そんな

な我々に時間が取れるのか心配ではあったが、無事計画通りマチガ沢大滝（ロッククライミング）まで実施することが出来た。今回は三月と六月の二回分を掲載し次号で八月一ノ倉沢、九月マチガ沢大滝を掲載する。

※「スノーシューで巡る

湯檜曾川沿い」

期 日 平成二十六年三月十五日
（土）午後一時より 十六日（日）

雨天決行

場 所 谷川岳湯檜曾川沿い一ノ倉沢出合往復

コース 谷川岳山岳資料館→土合橋→マチガ沢出合→一ノ倉沢出合→マチガ沢出合

→土合橋→山岳資料館

募 集 十五名（先着順）

参加対象者 小学三年生→中学三年生

実参加者 ジュニア八名 同行保護者五名（宿泊保護者七名）

名

参加スタッフ十一名

募集方法 上毛新聞掲載、口コミ、前回参加者へ案内

参加費 ジュニア三千円・宿泊保護者二千円

護者二千円

概 要

最初の仕事は、谷川岳山岳資料館入口の除雪である。スコップとスノーソーで一時間ほどかかったが、資料館入口と車のよける部分の除雪が終わる。受け入れ態勢完了である。

受付後、ジュニア達は早速、明日に備え、スノーシューによる歩行練習を行う。山岳連盟ジュニア委員会購入の新品スパッツを履き、レンタルのスノーシューを装着す

るまでが一苦勞であつたが、履いてしまえばあとは全く問題なく、資料館周辺の雪の吹き溜まりの中を歩き回る。前回の時もそうだったが、はしゃぎまわる子どもたちを見ていると楽しくなる。

一段落したところで練習を終了し、今日のメインイベントである雪洞作りを開始する。予定ではイグルーであつたが、

時間が足りないという

事で、雪洞に変更する。場所は、資料館前東端の吹き溜まりが壁になつたところを指定する。

スノーシュー出発

最初の入口作りは、なかなか難しいため山岳連盟スタッフが行い、後の穴掘りを交代でジュニアたちが行う。うまくいくもので穴を掘る子、雪を外に運ぶ子と



樹林を行く

で土合橋に向かう。今日は午後から雨模様との天気予想と、かなりの入山者がいるとの情報なので、混雑する前に一足先にという事で歩き始める。

昨日の練習の成果で、問題なく樹林の中を進む。なるべく踏み跡のないところを、楽しくジグザグに歩く。昨日の雪洞掘で、スボズボ埋まるのを体験済みだが、スノーシューがあるので、雪の中に埋まらずに歩けることを実感する。

天候も良く子供たち皆走り出したそうな雰囲気である。駐車場の東屋が雪に埋もれている。

マチガ沢出合で小休止。いよいよ昨年九月の一ノ倉沢沢登りで通過したルートになる。九月にも参加したジュニア達がほとんどだが、

雪の多さで、それが同じ場所とはみんな信じられないようだ。快晴青空の下、雪原の左手には東面の岸壁群が続く、堅炭岩から武能岳と続く。見事な眺めだ。が、子供たちは

そんなことには見向きもせず、走る、走る。混雑を想定して早発ちしたのがよかった。我々だけの一ノ倉沢出合着だった。記念撮影を済ませたところから、だんだん人が集まり始める。

下山を開始すると、予想通り、来るわ来るわ、人の群れがものすごい。スノーシュー人気コースなのだと実感。雪にすっかりと慣れたジュニアたちは、やはり速い。疲れ知らずだ。予定より早く谷川岳山岳資料館に着く。

ジュニア、保護者より装備を回収、点検後、講評と修了証を渡し「またね」のあいさつで解散する。



雪山の勉強

行動中は天候にも恵まれ、楽しい事業であった。夜の食事は参加者個々それぞれであったが、八木原会長差し入れの生ハムに、スタッフ・参加者全員で舌鼓を打ったり、お茶にコーヒー、大人は酒宴にと、歓談もできた。

歩きながらの保護者との会話で、ジュニア保護者共々、この群馬県山岳連盟の事業に期待しているとのこと、これには我々も熱い心で答えなければならない。

担当スタッフ

・CL 金子一実 ・雪山講習

吉田直人 ・医療 田中壯吉 ・

写真 小泉俊夫 ・行動サポート

八木原罔明 小暮文彦 高橋守

男 吉田文江 阿部悦子 ・他岳

連外協力者二名

購入備品

ジュニア用オーバーシューズ15足

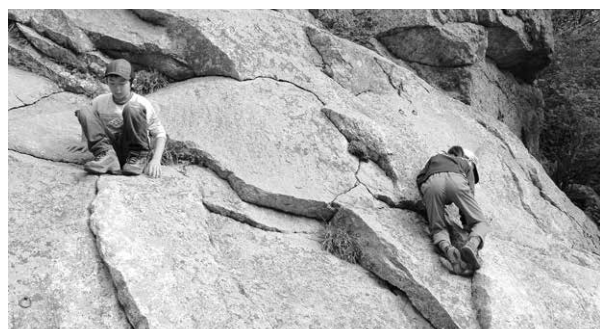
レンタル装備

スノーシュー 15セット ストック 15セット

※「谷川岳旧道から

谷川開拓の虹芝寮を巡る」

期 日 平成二十六年六月二十一日(土)



まむし岩

場 所 谷川岳旧道から虹芝寮
コ ー ス 谷川岳山岳資料館～旧道

マチガ沢出合～一ノ倉沢

出合～幽の沢出合～芝倉

沢出合～虹芝寮～新道経

由谷川岳山岳資料館

募 集 十五名(先着順)参加対象者 小学三年生～中学

三年生

実参加者 十名 同行保護者五名

参加スタッフ 七名

募集方法 上毛新聞、口コミ、前

回参加者へ案内

参加費 ジュニア 三千元(初回

者は四千元)

概 要

当初計画は、「谷川岳山頂に登ら

せよう。」で、天神尾根經由谷川岳山頂トマノ耳の往復であったが、残念なことに今年に限り？ロープウェイ点検で休業中の事態となっていました。それでは西黒尾根から登るかなどの議論の末、応募参加者にもよるが、残雪(天神尾根にもあるが)の状況、コースの長さなどから大変ではないかという意見が多く出た。そこで歴史ある虹芝寮を訪ねながら、旧道、新道と歩くのいいのではという事で、コースの変更をした。これについて、同意を得るために電話連絡で、全員の参加者より了解を得ることができた。

早速八木原会長に、虹芝寮利用のお願いを成蹊高校に依頼してもらい、使用の許可をいただくことができた。

当日は新緑の中を楽しく旧道を歩いた。マムシ岩ではジュニア達数人は登らずにはいられない。旧道の歴史や苔むした石垣の歴史など、当時



芝倉沢

のことなど話しながら歩く(ジュニア達には何のことやら)。一ノ倉沢出合から幽ノ沢へ、やがて虹芝寮へ下る分岐を過ぎ芝倉沢へと歩く。スタッフが歌好きなら、ジュニア達と合唱でもしながら歩く雰囲気だ。やがて残雪に埋まった芝倉沢出合間近となったが、残念ながら雪の状態が悪く近づけない。手前で記念撮影し虹芝寮へと向かう。

虹芝寮は素晴らしかった。訪れる誰もが「来た時よりも美しく」をモットーに掃除、整理整頓を心

掛け、ここを守ってきたことを痛感した。食事の時間を利用し、虹芝寮の歴史やこの施設をお借りした経過などの説明をする。それを聞いて、知ってか知らずか、ジュニア達は食事が済むと部屋中の探検とばかりに、大はしゃぎで部屋中、内外を駆け巡る。いくら制しても聞くものではない。しかし時間が来て、帰るときには、ジュニア達も部屋の掃除は真剣にやっていた。鍵を閉めるときに、あらためて部屋を見渡し、虹芝寮の歴史を感じた。

途中蛇に出会っての大騒ぎ等もあったが、今回のコースはジュニア達には少し物足りなさもあったかもしれない。しかし三月のスノーシューの時に雪に埋もれていた、マチガ沢駐車場の東屋の全貌を見て、雪のある時と無い時期の変化に驚いたり、虹芝寮での掃除、雑巾がけ等、ジュニア達にとって良い体験となったと思われる。

担当スタッフ

・CL 金子一実 ・挨拶 八木

原罔明 ・写真 小泉俊夫 ・行

動サポート 湯沢好夫 高橋守男

小暮文彦 後藤文明

JMA

守ります。美しい日本の山。

山岳保険の加入は 登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

■平成25年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成26年6月12日)

発生件数 **2,712**件 (前年対比 184件増)

遭難者数 **2,713**人 (前年対比 248人増)

死者・行方不明者 **320**人 (前年対比 36人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
U R L : <http://sangakukyousai.com>

ぐんま山の日制定記念 第30回群馬県民の日記念事業 第37回県民登山大会報告

大間々山岳会 藤 沼 隆 男

趣旨 山や森林に親しみ、学び、

その恵みに感謝し、そこを守る取
り組みを推進するとともに、楽し
く安全に故郷の山を登山し、登山

の喜びを味わい、健康と体力の保
持増進を図る。また、群馬県秋の
環境美化運動の一環として清掃活
動を実施する。

主催 群馬県山岳連盟

共催 『ぐんま山と森の月間』

推進協議会

後援 群馬県（公財）群馬

県スポーツ協会、み

どり市、みどり市教

育委員会、みどり市

体育協会

期日 平成二十六年十月二

十六日

会場 氷室山（一二三三m）

根本山（一一九九m）



休憩後出発



危険箇所通過



ベテランの説明

第三十七回県民登山大会は、群
馬の東部みどり市東町沢入地内氷
室山と根本山を会場に開催され
た。

本年から主管団体方式から群馬
岳連全体の管理運営で行われるこ
とになり、県山岳連盟役員三十九
名の出席を受け、一般参加者は、
氷室山コース三十八名、根本山

コース二十五名、合計九十七名が
参加されました。

地元大間々山岳会と桐生山岳会
が、担当角田二三男岳連副会長と
協力し、コース選定及びコース整
備に携わり、天候も、閉会帰宅時
に降雨という幸運にも恵まれて、
事故もなく、紅葉の山を存分に楽し
んでいただけたと思う。

まずコース選定では、近年の参
加者の内容から検討を行なって、
四時間半の一般コースとして氷室
山、六時間の健脚コースとして根
本山を決定した。両山とも、近頃
のハイキングブームでも桐生及び
栃木県方面からの入山が多く、み
どり市側は、登山道は一部踏跡・
獣道に近く、標識も少なく、地図
とコンパスが必携品というルート
だが、安全登山の啓蒙普及をはか
ることが岳連活動の役割の一つで
もあろうと決定した。一般参加者
のある方から、「このような機会で
ないと、個人では来られなかった
かも知れなかった。いい経験がで

きて、これからの登山で、地図と
コンパスが読めるように勉強しま
す」との意見をいただき、役員の
一人として労が報われ、少なから
ずの喜びとなりました。山の遭難
事故の原因の上位を占める道迷い
が少しでも減れば嬉しいです。

総括として、県民登山大会が、
主管できる団体が少なくなつたと
の理由で、岳連全体の行事となつ
た初年であつたが、佐藤理事長か
ら角田副会長に行事責任者依頼が
あつたのが六月に入つてであり、
コース選定及び整備に時間が不足
していた。十月理事会で八木原会
長より、コースの橋の整備と危険
箇所のロープ固定、駐車ス

ペース整備等の協力について
役員に檄がとばされ、岳連行
事なのだからと協力いただ
いた役員の皆様に感謝申し上
げます。私見ですが、第三十
八回大会は、四月には地域選
定、運営役員の選定に入り、
十月には皆の協力で実施しま
しょう。

日山協雪崩研修会に参加して

前橋山岳会 神 垣 聖 子

平成二十七年二月二十一日から二十二日、日山協雪崩研修会が谷川岳土合 天神ロッヂで行われました。椅子に座るのが惜しいほどの快晴の中、日山協遭対常任委員、指導常任委員、ほか約二十名が参加し、講習会ではどこにフォーカスして進めていくかという内容で始まりました。

私は山岳会に所属して間もない

身ですので新人目線で感想を述べさせていただきます。一月に土合で行われた冬期レスキュー講習会に参加したときの講師の方々と並んで研修を受けるのは何とも場違いな気持ちでした。が、とにかく積雪安定性の評価がいまいで自分では判断が難しい点、座学での復習ができる点に期待して参加を希望しました。講師は遭対常任委



積雪状態を観察する様子

員のFさんです。複数の団体に所属し、所属の枠を超えて知識をお持ちの姿に感服しました。雪崩に遭うことや目の前で起こることはそうありませんし、あつても困りますが画像や映像での説明が多かったおかげで自分や仲間が雪崩に遭った場面をシュミレーションしやすくなり、それによってトレーニングも身につきやすくなったと感じました。よく視覚から得られる情報量の割合は約八割といわれていますがやはり映像の効果は大きいようです。

座ってばかりでもありません。午後は外に出て積雪のチェックも行いました。私にとつての問題点は、積雪の評価と安定性の判断ですが、ここでは講師の方が受講生にはどう伝えていいのか、どこま



講習会をシミュレーションした教え方に関するディスカッション

で言っているのかと質問を投げかけていました。受講生の前に立ち、少々の笑いを交えながら流れるように講習が進められている影には苦心があるのだと講習会の裏側を覗いたようでした。また、以前の冬期レスキュー講習生の雪崩埋没経験者からザックを背負っていたおかげで低体温症にならなかったという話があったと紹介し、これ

まで教えていた雪崩地形通過の際、ザックベルトを外すことについて疑問を持ち発言がありました。従来の教えに固執することなく新しい情報に柔軟でいる姿勢がとても印象に残りました。

夜の親睦会では、地元のお酒を持ち込みたくさんの日本酒が並びました。遠方からこの会場までの道中の話や家族旅行の話など、いつでもどこでもタイトなスケジュールで内容が濃く楽しまれているようです。意外にも山スキーをやる方が多く、もつと話を聞きたかったと帰宅途中に寄ったスキー場で後悔しました。みなさん、お酒が強く翌日も元気です。

私にとつて今回の研修会は知識の底上げ以上に、習うのではなく学ぶということ、どんな姿勢でいるかで情報の吸収は変わってくるものだと思えるものがありました。新人会員にも参加の門を開いてくださりありがとうございました。では、元氣よく雪の上に出かけていきます。

雑 感

大間々山岳会 福田 純一

平成二十六年十二月六日の群馬カップクライミングコンペに撮影係で参加したときのこと…ハリボ

テで作られたチムニーを通過していく課題があったので「本番みたく面白いですね」と競技役員の一人に話し掛けたら「いや国体ではこういうのはないです」と「あ、本番とは山での岩壁登攀の意味ですが」と私…しかし彼からそれ以上の返事はありませんでした。彼の意中には山でのクライミングは無いのだな、と感じました。

競技（のクライミング）に傾注している人は勝てる自分を作るのが一番大切ですから登山する・考える余裕はないのかも知れません。あ、いや傾注というより「野外に出る、山に登る」ことを考えることもないのかもしれない。

似たような話があるベテランガイドから聞いたことがあります。それはスキーをやっている人（競技スキーヤー）に「登山とスキーとは元は一緒のものです。山と仲良くしませんか」と言っても「何

を言っただけだ？このオッサン」てな調子です。

今、国体の山岳競技がクライミング種目のみになっていますが、そのうちスポーツクライミングが一人歩きして…山岳連盟活動の復興の一助として力を入れていたのに気がついてみたら元は登山から始まったことなど分からないようになってしまふことを危惧します。そういう訳で数年前に東北六県で国体のクライミング種目ができない…どう考える…の話題の時、私は「以前のスタイルに戻したら」と述べました…今東北六県の方々がどういう状況…どう考えるのかは知りませんが。

私は競技のクライミングを否定するものではありませんが、それが登山活動ではないと常々考えています。ですから『本番』が山でのクライミングでなく、国体競技会である…とは、なんとも馴染めないものであります。

昔の話ですが一九七一年頃の雑誌「山と溪谷」の編集後記に『あ

る高校山岳部を取材したら、僕達の目標は国体に出場して優勝することです。というので あきれたものだ」とありました。また、一九七九年頃、国体山岳競技に関して県だか国の補助金が出るとか（細かいことは失念）で群馬岳連

でも人を出す話題になったとき「そういうことは相容れない」の考えを述べる方が「少し大人になって」と言われているのを聞いて『大人とはそういうものか』と当時学生だった私は感じました。本多勝一氏の『パイオニアワークを失って、山は死んだ』を意図する本などを読んで（中学校2年の教科書にも書かれていた）育った山ヤの時代でしたから。

では今、お前は山岳界復興・会員増加のために何をしているのか、できるのか…ということになります。

私は、やはり登山活動は天然の中に求めます。最近一番の楽しみは山スキーです（手首を傷めてしまい岩クライミングは止めています）。登山として雪山の良さは登山道と関係なくルートを自分で決められることです。パイオニアの要素があります。最近『滑り』が大分上達して「頂上直下の美味し

岳連トピックス

石井謙一郎氏米寿迎えらるる

石井謙一郎氏は大正十五（一九二六）年七月二十六日にご誕生、米寿を迎えられた。昭和四十九年から十年間群馬岳連理事長、昭和五十九年から十四年間群馬岳連副会長をつとめられるなど、群馬県山岳連盟の礎を築かれた。平成二十六年六月七日「群馬岳連石井謙一郎元副会長の米寿祝いの会」が盛大に開かれ、多くの方のお祝いを受けられた。尚、石井謙一郎氏から岳連発展のために九万円の寄付金をいただいた。

群馬県スポーツ協会会長賞

村上泰賢氏、大澤咲子氏、

細野かおり氏

岳連参与村上泰賢氏はスポーツ功労者賞を、また、国体山岳競技成年女子リード第五位入賞の大澤咲子、細野かおり両選手は優秀選手賞を受賞した。表彰式は二月十四日、群馬県総合スポーツセンターぐんま武道館で行われた。

八月十一日は『山の日』

みんなでふるさとの山に登ろう

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨で祝日「山の日」が制定された。二〇一六（平成28）年から施行される。

関東 オートキャンプ場 なら 桐の木平キャンプ場 溪流サイト 団体専用あり

桐の木平キャンプ場

〒378-0102

群馬県利根郡川場村川場湯原2681

tel 0278-52-2442

電話、弱电工事

プモリ電設

〒379-2223

伊勢崎市小泉町 252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026